

大会規定

1. チーム登録選手は 11 名以上 25 名以内(ベンチ入りも 25 名以内)とする。また大会初戦以降は登録選手の変更を一切認めない。
2. 出場選手は試合当日現在、連盟への登録済みの者とする。
3. 審査証は当年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手 25 名以内及びチーム責任者（代表またはそれに代わる責任ある者でチーム責任者証を携帯している者）・登録された監督・コーチ及びマネージャーのみがベンチに入ることができる。但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)及び審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間にあった場合は、審査の上、ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。尚、審査は選手が自ら氏名・生年月日を声にだす方法とする。
なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。また、熱中症等の対策・救護の為、保護者はベンチ横で待機し、飲料補充等で 1 名に限り一時的にベンチに入することは許可する。
5. 組み合わせの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者・監督・コーチは登録証を携帯すること。
6. 監督（背番号 60）・コーチ（背番号 50）は選手と同じユニホームを着用すること。（合同チームは自チームのユニホームとし、選手の背番号は重複してはならない。）
7. 試合開始時刻 60 分前までに試合会場に到着の報告をし、直ちに選手登録名簿 1 部、オーダー表 5 部、投球数記録表正・副(3 部)及び初戦の場合は、直前大会参加報告書を本部に提出し、本部確認の上、審査を受けなくてはならない。尚、グラウンドの外における選手の本部挨拶は行わないものとする。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時間までにチームがグラウンドに現れないときは、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
10. 試合方式など
 - (1)各試合は 6 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 1 時間 40 分を越えた場合、新しいイニングには入らない。（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合終了とする）同点の場合は、最終回時点で出場していたメンバー 9 名全員の抽選により勝敗を決定する。但し、決勝戦は試合時間に関係なく 2 回の延長を認める。それでも勝敗が決まらない場合はタイブレーク方式を実施する。（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能になった場合、野球規則 4.11（d）により勝敗を決する。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2)4 回終了後（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回表終了時）7 点差の場合コールドゲームとする。
 - (3)熱中症対策として、**3 回裏終了後**（決勝における延長戦は 6 回裏終了後）に 3 分以内のインターバルを設ける。さらに 1 イニングの守備時間が 20 分を越える場合は、主審の判断により 3 分以内の水分補給時間を設ける。いずれもその間は時計を止め、1 時間 40 分には含めない。
11. 投球数に関する制限
 - (1)投手は 1 日最大 70 球とし、連続する 2 日間で 105 球以内とする。
連続する 2 日間で 70 球を超えた場合は、3 日目は投球を禁止する。また 3 連投（連続する 3 日間）

する場合は、1日の投球数を35球以内とし、4連投（連続する4日間）は禁止する。

(2)大会中は1日70球投球後、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。

(3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了まで投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。

(4)連続する2日間で70球を超えた投手、並びに3連投した投手は、翌日捕手としても出場できない。

(5)ボークは投球数にしない。

(6)雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

(7)サスペンデッドゲームの場合、その投球数はそのまま持ち越す。

12. 監督、コーチの指示に関する制限について

(1) 監督またはコーチが投手のもとへ行くことに関して、規則 5.10 (ℓ) を適用する。

(2) 監督またはコーチの指示は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。タイブレークに入った場合は、それ以前の回数に関係なく、守備・攻撃それぞれ1回の指示を認める。
(選手の怪我は回数に入らない。)

スピードアップの観点から投手のもとへいくことだけでなく、監督またはコーチが選手を呼んで指示する行為も回数に数える。

(3) 投手および野手を交代する場合は、ファウルラインを越える前に球審に交代を通告しなければならない。ファウルラインを越えてから交代を通告した場合は指示の回数に数える。

(4) 選手の怪我、事故などで監督・コーチがファウルラインを越えても回数には入らない。

(5) 投手に対する指示が3回目になれば、その投手は自動的に交代しなければならない。

(6) 投手が投球練習を始めても監督・コーチがマウンド付近に留まった場合には、1回に数える。

(7) 野手（捕手を含む）が2人以上投手のところに行った時も指示1回に数える。

(8) 1イニングで同一の投手に対して指示が2回目となればその投手は自動的に試合から退かなければならない。

攻撃側の責めに帰せないタイム中（例えば、守備側が投手のタイムを要求したタイム中、選手が負傷したとき、選手の交代のときなど）の指示は認めるが、さらに試合が遅延した場合は、回数に数える。

13. 同一イニングでの投手の守備位置の交代について

野球規則 5.10 (d) 【原注】 前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。

〔規則適用上の解釈〕

投手は同一イニングで二度目の投手に戻れば、それ以降同一イニングでは他の守備位置につく事はできない。

① 投手→野手→投手 —公認野球規則 5.10 (d)

【原注】 適用

② 投手→野手→野手→投手 —連盟規則

③ 投手→野手→野手 —連盟規則

14. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15. 監督またはコーチが投手に指示するときはマウンドのところで行うこと。（ベンチからは駆け足で）

16. 塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17. ボール回しをするときは一回りとし、最終野手は、その定位置から投手に返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18. 投手が走者をアウトにする意思がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具【マスク・捕手用ヘルメット・プロテクター・レガース・スロートガード・ファールカップ（一体型捕手マスクの場合はヘルメット・スロートガードを除く）】2組を備えること。（合同チームの場合は自チームの色）
20. ユニホーム、バット、グラブ、スパイク等は連盟指定業者のものに限る。
21. 捕手は必ずヘルメットならびに規定道具を試合、練習を問わず着用すること。
22. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に設定された場合は、それに従うこと。
23. ベンチ内で携帯電話の使用を禁止する。
24. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。尚、シートノックを行う場合であっても、選手の体力を勘案しチーム責任者の判断で辞退することは可能とする。
26. 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任はもたない。
27. 試合中にマナーの悪い服装、態度等があれば退場させることができる。（球場責任者の権限）
28. その他の規定は、（公財）日本少年野球連盟の規定に従う。
29. 新型コロナウイルス感染症対策の観点から、別紙、連盟通達の「**新型コロナウイルス等の感染症対策及び健康管理について(新ガイドライン) [2024.07.01 改定版]**」に従うものとする。

令和 8 年 5 月 19 日



公益財団法人
日本少年野球連盟
BOYS LEAGUE

地区大会承認証

公益財団法人 日本少年野球連盟

関西ブロック長 山崎 幸二



西口 秀史 殿

令和 8 年 5 月 11 日 大会開催申請の件、承認
致します。

大会名 第 **32** 回日本少年野球 **ボーイズリーグ** 豊中大会

承 KS 08 — 32